

平成23年度事業  
夢たま補助金(市民提案型まちづくり事業補助金)

成果報告書



多摩市 くらしと文化部市民活動支援課

平成24年7月

## 目次

「多摩市市民提案型まちづくり事業補助金」の概要.....	1
審査・評価の方法 .....	1
審査委員(第3期).....	2
平成23年度応募事業の経過 .....	3
平成23年度 多摩市市民提案型まちづくり事業補助金 交付額・精算一覧表 .....	4
各事業の成果(以下事業名)	
<b>&lt;チャレンジ部門&gt;</b>	
(1)「故郷の物語、昔も今も、ドリームタイムの流れの中で」.....	5
(2)キラ★キラmamaのハッピースクール .....	7
(3)子連れで広げよう友達の輪！歌って踊ってLet's enjoy！ .....	9
(4)演劇で広げる多摩の和プロジェクト.....	11
(5)みんなで楽しく！芸術講座-日本のアート縄文土器に学ぶ- .....	13
(6)高齢者を元気にする「懐かしい思い出の抒情画」.....	15
(7)東京にしがわ大学 たま授業プロジェクト～地元企業等とのコラボレーション教室.....	17
<b>&lt;ステップアップ部門&gt;</b>	
(1)住民が作る安全なまちプロジェクト.....	19
(2)～多摩に舞い降りた天女たち～.....	21
(3)tama ROCK(タマロック).....	23
(4)人間ばん馬の街・置戸-自然環境と都市生活を体験する交流事業.....	25
(5)多摩の古街道”歴史時代再現まつり&フットパスウォーク .....	27
(6)貝取こぶし館とその周辺の美化と癒しの環境づくり .....	29

## 「夢たま補助金(多摩市市民提案型まちづくり事業補助金)」の概要

この補助金は、市民団体が自主・自発的に行う、多摩市のまちづくりに役立つ公益的な事業に対し、事業の経費を一部補助するもので、多摩市に「新たな支え合い」の担い手を多数創出して、地域の公共サービスを豊かに展開していくことを目指したものです。

補助対象事業は公募方式により募集し、第三者機関（多摩市市民提案型まちづくり事業補助金評価市民委員会）による厳正な審査を経て決定します。

### 平成 23 年度審査・評価の方法

(1) 予備審査：（形式審査）

必要要件の不備がないか等の形式審査

(2) 本審査（書類選考・プレゼンテーション）

以下の基準に基づき審査し、交付の優先順位を決定します。

【補助対象事業の基準】※○か×で評価する。過半数の委員が×の場合は、選外となる。

項目	対象事業	内容
①補助金交付の公益性	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広く多摩市民に開かれた事業であること</li> <li>・ 事業の効果が不特定多数の市民に広く及ぶこと。サービスの対象者だけでなく、他の市民や他の地域、社会全体への「広がり」や「波及効果」が認められること。</li> <li>・ 事業あるいは本補助金の主たる受益者が、応募団体の構成員や特定の人を対象となる事業でないこと。</li> </ul>
②事業の継続性	ステップアップ部門のみが評価の対象となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで継続してきた事業をさらに発展させ、広げ、定着させていくことを目指した内容であること。</li> <li>・ 申請内容がイベントや調査などの単発型事業の場合でも、まずベースとなる継続事業があり、申請内容がベースとなる事業のその後の事業展開に有効であることが認められること。</li> </ul>

【事業についての基準】※各委員が各項目 5 点満点で評価します。

項目	対象事業	内容
①事業の目的と効果	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の目的と効果が明確か。</li> <li>・ 時代の要請や社会状況、市民ニーズに即したもののか。</li> <li>・ 市民の税金を使ってその事業を支援することについて、広く市民の共感が得られ応援したくなる内容か。</li> </ul>
②実現性	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該年度の事業が、実現可能な方法、スケジュール、予算で立案されているか。</li> </ul>
③期待度	チャレンジ部門のみが評価の対象となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発送、着眼点、手法などに市民ならではの先駆性や独創性、工夫があり、今後の展開に期待がもてる事業か。</li> <li>・ 今後継続し、定着させていくことを目指す</li> </ul>

		事業か。 ・ 申請内容がイベントや調査などの単発型事業の場合でも、その後の展開に有効であることが期待できるか。
④自立性	ステップアップ部門のみが評価の対象となります。	・ 本補助金が終了した後、その事業をどのように継続していくかの事業計画・資金計画が明確で妥当か。 ・ 本補助金だけに頼らない資金確保に努めているか。 ・ 自立に向けて、一般市民や他の市民団体、企業などとのネットワークを広げ、連携し、巻き込んで行く視点があるか。

【団体の基準】※各委員が各項目5点満点で評価します。

項目	対象事業	内容
①団体の適正等	チャレンジ部門 ステップアップ部門	・ 運営が閉鎖的でなく、広く開かれた組織か。 ・ 申請する事業を行うにあたって適正な規模内容を保有しているか。 ・ 事業の規模に見合った自己負担能力を有しているか。

#### 【プレゼンテーション】

関戸公民館（ヴィータ）の市民ロビーにて、公開によるプレゼンテーションを実施します。書類審査を重要視しますが、書類上読み取れない点や疑問点についてはプレゼンテーションを参考に評価します。各委員は、上記審査項目単位に素点を振り、順位を決定します。（審査委員の過半数が×の評価を付けた事業は、選外となります。）

各委員の順位を平均したものが、委員会としての『補助金交付の優先順位』となります。

**審査委員(第3期)任期:平成21年9月4日から平成23年7月31日まで**

※23年度応募の審査は、第3期の審査委員下記の委員により審査を行いました。

委員長：松本 祐一 学識経験者（多摩大学総合研究所 准教授）  
 副委員長：饗庭 伸 学識経験者（首都大学東京准教授）  
 委員：日吉 東 学識経験者（日吉税理士事務所 所長）  
 委員：寺田 桂子 学識経験者（フラワーオフィス草苑代表）  
 委員：平野 紀美子 本補助金交付経験団体（多摩市消費者団体連絡会 副代表）  
 委員：佐伯 耕司 公募市民 ※平成23年4月25日離任  
 委員：野上 健一 公募市民

## 平成 23 年度事業の経過

- 説明会：平成 22 年 8 月 25 日（市民活動情報センター）、8 月 28 日（ベルブ永山）にて本補助金の主旨や申請に関する説明会を開催し、延べ 9 団体 11 名の参加者がありました。
- 募集・受付：平成 22 年 8 月 23 日から 10 月 1 日まで  
チャレンジ部門に 9 事業、ステップアップ部門には 10 事業（合計 19 事業）の応募がありました。
- 書類審査：平成 22 年 10 月 27 日、11 月 17・24 日
- 応募事業のパネル事前展示：平成 22 年 11 月 30 日～12 月 5 日
- 公開審査：公開プレゼンテーション：平成 22 年 12 月 5 日(日)関戸公民館市民ロビー
  - 各事業 8 分+質疑応 5 分（合計 13 分）で、16 事業のプレゼンテーション及び審査を行いました。
  - 応募 19 事業の内、公開プレゼンテーション前に 3 件、公開プレゼンテーションで 1 件が選外、その後、2 件が申請取り下げし、13 事業総額 3,521 千円を事業開始時に概算交付しました。



- 応募事業の実施：平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
- 成果報告会：平成 24 年 7 月 1 日：関戸公民館市民ロビー  
12 事業の成果報告会及び情報交換会を実施。  
決算額 12 事業の総合計：2,908,000 円  
5 ページ以降に各団体の活動内容・自己評価表、収支決算の内訳表を掲載しています。

平成23年度 夢たま補助金（市民提案型まちづくり事業補助金）交付額・精算一覧表

（チャレンジ部門）							
優先順位	整理番号	事業名 （団体名）	希望補助額 （円）	希望補助率	交付決定額 （円）	決算額 （円）	応募事業内容【概要】
2	C-1	「故郷の物語、昔も今も、ドリームタイムの流れのなかで」 （緑の種アートネットワーク実行委員会）	300,000	75	300,000	210,000	多摩の自然環境や歴史、社会について理解を深めるために、様々な美術的手法ワークショップに参加し習得してもらう。
-	C-2	（仮）空に紙風球を飛ばそう！（アートワークイベント） （モクニ）	300,000	60	H22.11.22 申請取下	-	紙製のランタンに絵を描き風球にして空に上げる。制作の指導を団体がワークショップ形式で実施する。共同作業を通じて市民の一体感を築く。
1	C-3	キラ★キラmamaのハッピースクール （たまじょ）	222,000	80	222,000	222,000	育児中の母親を中心に参加型の講座を開催し、子育て時期を心身ともに元気で子どもと向き合うためのリフレッシュの時間や交流（コミュニケーション）の支援を行う。
6	C-4	子連れで広げよう友達の輪！歌って踊ってLet's enjoy！ （子連れサマサ）	300,000	54	300,000	106,000	親子で楽しめるイベントとワークショップの開催。地域の活性化及び子育て中の母親を中心に地域の人々との交流を深める。
7	C-5	演劇で広げる多摩の和プロジェクト （多摩市民文化交流振興会）	300,000	35	300,000	H23.11.28 事業廃止	参加者を公募し、「多摩の民話」や「多摩の平和」などをテーマに多摩地域に密着したオリジナル脚本で、演劇活動を行う。地域コミュニケーションを意識した幅広い年齢層で交流を深め、市民の為への興味・関心を向上させる。
5	C-6	みんなで楽しく！芸術講座－日本のアート縄文土器に学ぶ－ （特定非営利活動法人 アート多摩）	116,000	69	116,000	116,000	多摩地域の縄文文化と縄文土器についての講義と体験制作。アートの視点から多摩の歴史・文化への理解を深め地域とのつながりを体感する。
-	C-7	「いのちを慈しむ街プロジェクト：動物福祉セミナー＋TNRモデル事業」 （たま・アニマルレスキュー・ネット）	300,000	76	H22.11.15 申請取下	-	動物福祉の概念、動物愛護法の現状と問題点、コンパニオンアニマルの適正飼養、飼い主不明猫対策等をテーマに連続セミナーを開催。市民が生き物と強制できる社会について考える機会を提供する。
4	C-9	高齢者を元気にする「懐かしい思い出の抒情画」 （ぬり絵アート普及協会）	300,000	59	300,000	300,000	講師を招き脳の健康について体験型（回想法のぬり絵等）の講座を実施。公民館、高齢者向け施設、病院等で出前講座を実施及び叙情画の冊子制作。
3	C-10	東京にしがわ大学 たま授業プロジェクト～地元企業等とのコラボレーション教室（東京にしがわ大学）	300,000	80	300,000	272,000	様々な分野の授業を会員個人が企画提案し、団体がバックアップして開講する。市内密着型の企業等と連携し敷地や建物を提供してもらう。
小計		申請件数：9件、交付件数：7件 ※審査前に2件申請取下げ 審査後に1件事業廃止	2,438,000		1,838,000	1,226,000	
（ステップアップ部門）							
優先順位	整理番号	事業名 （団体名）	希望補助額 （円）	希望補助率	交付決定額 （円）	決算額 （円）	応募事業内容【概要】
8	S-1	住民が作る安全なまちプロジェクト （NPO夢のマネージメント社）	180,000	60	180,000	180,000	防犯寸劇を作りインターネット公開している。寸劇の朗読を地域住民が行い、動画の作成編集は委託する。寸劇の著作権を有料で許諾することにより収益を上げながら安全対策を実施できる地域事業のモデルの普及をはかる。
7	S-2	地域盆踊り大会を再生して絆を深めよう （聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会）	270,000	60	H23.2.15 申請取下	-	ひじり館を中心に多くの自治会や管理組合が参加した盆踊り大会を実施する。
-	S-3	生きいき大人のぬり絵コンテスト （東京グレイターズクラブ）	174,000	60	H22.11.29 申請取下	-	市内のデイサービス等の施設で高齢者の方にぬりえを描いてもらい、脳の活性化に役立てる。公民館ギャラリーに作品展示を行う。
6	S-4	～多摩に舞い降りた天女たち～ （和創千華）	270,000	33	270,000	270,000	日本の伝統文化をしない存在、在勤の学生を対象に指導し、年2回イベント（ステージ）を開催。
3	S-6	第24回文庫展 子ども本の広場一本の広場であそぼう （多摩市文庫連絡協議会）	198,000	49	H23.4.20 申請取下	-	文庫活動を多くの人達に伝えるために「第24回文庫展」を開催する。絵本の原画を見たり絵本作家の講演を聴くことで絵本のすばらしさを感じてもらいお話を通じてお話の楽しさを体感してもらう。
2	S-7	tamaROCK（タマロック） （tama rock実行委員会）	675,000	35	675,000	675,000	“野外活動を通じて驚きや喜びを体験してもらう。レクリエーション（野外体験、クラフト教室、パンづくり）、エコ（環境保全、環境保護のワークショップ）、ライブ（野外コンサート）を実施する。”
5	S-8	人間ばん馬の街・置戸－自然環境と都市生活を体験する交流事業 （永山地区・置戸町の交流を進める会）	97,000	50	97,000	96,000	永山地区と北海道置戸町の子ども大河ホームステイをしながらホストファミリーや地域の方々であいあいそれぞれの異なる生活環境を理解する。
1	S-9	多摩の古街道“歴史時代再現まつり&フットパスウォーク” （歴史古街道団）	600,000	55	400,000	400,000	誰もが楽しめる時代再現の祭（万葉時代防人まつりや鎌倉街道まつり）や学習会、ウォーキングなどの実施。お年寄りの知識や経験を活かし、多摩ならではの「歴史フットパス観光」を実現する。※フットパス：「道」を活かした新しい街づくりの手法
選外	S-10	“多摩まつり”メディアサポート事業 （多摩イベントチーム）	1,500,000	60	選外	-	市内の各神社が個別開催している御輿渡御を一堂に会して行う大規模な秋祭り「多摩まつり」の開催。専用のウェブサイトを開発し、市内各神社の歴史や特色、ゆかりのある商店や人物などを紹介するコンテンツを掲載する。
4	S-11	貝取こぶし館と周辺の美化と癒しの環境づくり （貝取こぶし館 緑花委員会）	61,000	55	61,000	61,000	地域から公募した方が、貝取こぶし館周辺（施設外）の花壇や法面等の整備と維持管理を行う。地域住民を対象に「挿し木の講習会」などを実施して、この事業に対する関心と美化に対する意識を高める。
小計		申請件数：10件、交付件数：6件 ※審査前に1件、審査後に2件申請取下げ	4,025,000		1,683,000	1,682,000	
応募時点		合計19件	6,463,000				
審査時点		合計16件			3,989,000		
交付決定 （決算時点）		合計12件			3,521,000	2,908,000	



事業名	「故郷の物語、昔も今も、ドリームタイムの流れのなかで」
団体名	緑の種アートネットワーク実行委員会
事業の目的	このワークショップは、多摩の自然環境や歴史、社会について理解を深めること、参加者が国際交流をしていくなかで視野のひろがりを持たせ、自分やその周りの地域の特徴を再発見していくことを目的とする。ワークショップに参加した住民は、物語、詩、絵画やコラージュ、絵本影絵ランタン、ファイヤーアートといった美術的手法を学び、こうした方法でたのしく地域社会を理解し、表現する手段をまなぶことができる。これらのワークショップに参加することで、多摩のさまざまなコミュニティーのメンバーたちと、より有機的なつながりを持つ。
主な事業実施内容	11.19 中学生以上対象絵本ワークショップ 11.20 小学校3～6年対象絵本ワークショップ 11.26 幼児対象絵本ワークショップ
参加者	24 家族 55 名参加。その他見学兼ボランティア5名。
事業の成果	1. 多摩の自然環境、歴史社会についての理解、またオーストラリアメルボルンartplay美術館でのワークショップ導入の効果:大人のワークショップにおいては昭和初期の風景画がかかっている「からすたろう」の読み聞かせを行い、音や感じたままの言葉をつかった詩を作り、その後絵本づくりをした。参加者の感想として、自分がどんな子どもだったかを思い出した。子ども以上に、大人や老人の方もやるといいんじゃないか。過程がとて面白い。という感想をいただいた。今までのアプローチとは違う、オーストラリアで行われてきたワークショップの手法がいかされて、自然な形で導入ができたと思われる。 2. さまざまなコミュニティメンバーとの交流:今回ワークショップのお手伝いに多摩美術大学絵本研究会のメンバーに入ってもらった。参加者のうち、特に子供で顕著な効果があった。雰囲気をやわらげ、より自由な表現を引き出してもらったように思う。親から、普段大人と接しているときとは違う表情や表現があったという声をいただいた。あとから分かったことであるが、メンバー内にワークショップを専攻しているもの、また、教職の単位をとっているもの、また、技術的には絵本の技法、日本画を学んでいる留学生等がおり、想像以上に能力が高い集団であった。いろいろな面でとても助けられた。このようなスーパー集団でなくとも、今後、ワークショップその他のイベントで多摩市内もしくは近隣大学の学生に参加してもらうことで、子供と大人のコミュニティーの橋渡しの役割を期待できるのではと思った。

総事業費	263,746 円
補助対象経費	263,746 円
補助額	210,000 円

※補助対象経費の  
決算内訳は、次ページ



<自己評価>

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることにはできましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	今回のワークショップのチラシ配布で、幼稚園、保育園に伺い、話をきいてみたところ、11月開催ということで、文化祭、芸術祭と重なっており、興味はあるが参加できないという方が大勢いらした。ニーズとしてはとても多かったにもかかわらず、講師の来日にあわせて行ったため、十分に期待にこたえられなかったように思う。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	参加者がみな口々に、楽しかったといってくださいました。また、テーマを「道草」としたことで、それぞれふるさとや自分の住んでいる場所について、振り返る良い時間になりました。子供も大人も、絵のプロも市民も、絵本画家の卵も、みんなでひとつのものを作りあげたことは、大きな出来事でした。震災で一度白紙に戻ってしまい、開催をどうしようか迷ったのですが、事業を行って本当に良かったです。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	今回震災の影響により一度白紙に戻ってしまい、開催日が秋になってしまいました。幼稚園、保育園、小学校の文化祭、芸術祭の時期と重なってしまったので、改善点としては、開催時期を改善すべきと思った。また、今回ダウン症の子たちも楽しくできたので、障害者向け、また、高齢者向けに行うことも考えてみたい。

補助対象経費の決算内訳

<収入の部>

項目	金額	内容
事業の参加者負担金	12,000 円	絵本ワークショップ参加費 500 円×24
自己資金(負担)	41,746 円	
まちづくり事業補助金	210,000 円	
収入合計	263,746 円	

<支出の部>

人件費	52,749 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	153,000 円	絵本ワークショップ講師謝礼(2名×3日)
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	56,317 円	チラシ・ポスター印刷代、絵の具他材料費
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	1,600 円	物品搬入・搬出用駐車場代
保険料等	0 円	
その他必要な経費	80 円	チラシ送付代
補助対象経費合計	263,746 円	



事業名	キラ★キラmamaのハッピースクール
団体名	たまじょ
事業の目的	子供と親、双方が楽しめる体験型講座を通じて、親子間はもちろん同じ多摩地区の同世代の子育て中の横のつながりを広げるコミュニケーション力向上を目指します。又、講座を学んだことが、家でも実践できるものを提供することで、生涯学習の原点である家庭で豊かな心、自ら学ぶ力の向上を目指します。子育て中のママがキラキラとし、育児を楽しめる場の提供を目的とする。
主な事業実施内容	H23.6.25 家族と一緒に★描いた絵deわかる子どもの心理 自分の心理 ～TAMA 女性センター主催 女と男がともに生きるフェスティバル共催 7.28 親子de作る、天然酵母パン 8.22 親子deエアロビクス 9.27 親子de一緒に えいごdeあそぼう 9.27 ママの為の、“子どものお小遣い”講座 9.27 アロマ de セルフケア～免疫力を挙げるアロマ～ 10.1 親子de作る、天然酵母パン 12.14 プリザーブドフラワーde作るクリスマス飾り
参加者	講座8回の総合計 153 名
事業の成果	・参加型の講座のため、実際に体験できる内容となっております。家族と習ったことを家庭でできる実践型の講座です。親と子どもと一緒に学べる場を提供し、母親となっても子供たちと共に学び続ける(=生涯学習)ことを大切にしながら、“女性として“輝き、きれいで居続けることの大切さを再認識できる講座。

総事業費	279,502 円
補助対象経費	279,502 円
補助額	222,000 円



<自己評価>

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることにはできましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	子どもと一緒に参加できる講座をもっと開催してもらいたい。託児つき講座をもっと煩雑に開催してもらいたい。同じ講座にまた参加したい。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	震災の影響で実施が遅くスタートとなりましたが、心理講座を初回にしたことは心理面が心配な時期だけだけに意義があったと自負している。参加者のアンケート結果から、多数の方々が学びを楽しんでいただけたということがわかり、とてもやりがいを感じています。また、短時間の間でも育児のストレスから開放されたという声も聞くことができ、多摩市で楽しく育児ができる環境作りのお手伝いができたと思います。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	託児つきの講座をもっと開催してもらいたいという参加者のニーズがありますが、通常の講座にプラス、託児室、保育代、その他託児に必要な雑費等がかかるため、資金面でとても制限があります。

補助対象経費の決算内訳

<収入の部>

項目	金額	内容
講座参加費	39,000 円	全 78 回×500 円
自己資金(負担)	18,502 円	
夢たま補助金	222,000 円	
収入合計	279,502 円	

<支出の部>

講師料	120,000 円	2 万円×6 回
チラシ・ポスター・報告書等や印刷費、材料・消耗品等の購入費	50,000 円	リーフレット代
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	78,295 円	ホームページ代、保育士代
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	1,800 円	会場費、運搬費
保険料等	0 円	
その他必要な経費	29,407 円	雑費、郵送費
補助対象経費合計	279,502 円	

事業名	子連れで広げよう友達の輪！歌って踊ってLet's enjoy!
団体名	子連れサマンサ
事業の目的	親子で楽しめる本格的ライブイベント及びワークショップの提供。イベントでは、地域の各種他団体の紹介も行い、地域活動の活性化及び、子連れママを中心に地域の人々との交流を深める。
主な事業実施内容	平成 23.6.12 エコ・チャリティーライブイベント
参加者	おおよそ200名他参加団体(ママコス・NPOペイフワード・株式会社シェアするココロ・jelly jam kids)
事業の成果	3月の東日本大震災チャリティーイベントとして、親子で楽しめる本格的ライブコンサート、各種他団体と一緒にバザーも同時開催。他団体とも協力して、地域密着型のイベントを開催。

総事業費	132,585 円
補助対象経費	132,585 円
補助額	106,000 円



**エコ ミュージック チャリティー みんなでたすけあって たのしもう 子連れサマンサ ライブイベント**

6/12(日) ※雨天時6/19(日)に順延  
10:30～15:30  
多摩センター 三角広場  
※三越奥 東京都多摩市落合1-1-15  
参加費無料

出演者  
REMI & jellyjam Kids  
中村新史  
ママコス  
NPO ペイフワード  
株式会社シェアするココロ  
チャリティーバザー  
@0他

主催：子連れで / 推進団体 子連れサマンサ  
(平成23 年東京都市民協賛型多文化共生推進事業の推進機関認定活動団体)  
後援：多摩市 協賛：eeco+ スタンボ アヒーロード

詳しくは「子連れサマンサ」ブログをご覧ください！  
●● 各種お問い合わせは [info@samansa.com](mailto:info@samansa.com) ●●

主催：子連れで / 推進団体 子連れサマンサ  
(平成23 年東京都市民協賛型多文化共生推進事業の推進機関認定活動団体)  
後援：多摩市 協賛：eeco+ スタンボ アヒーロード

<自己評価>

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	ほとんどできなかった
ほとんどできなかった理由	3月の震災のための節電/電力不足の懸念より、夏に予定していたイベントを中止。6月に開催したイベントの際、多摩市のご協力にも関わらず、予想より集客数が上がらなかったため、予定していたイベント規模と参加費による収入が今後も見込めないと結論し、秋のイベントを見合わせました。
計画時に期待した効果をあげることにはできましたか	あまりあげられなかった。
あまりあげられなかった理由	上記実施計画理由を参照願います。
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	計画時に期待していた効果はあげられなかったものの、今後の活動規模及びその方法を改めて見直すことが出来た。(規模が大きければいい、という問題ではない、ということ)
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	より地域密着型として、子連れ親子を中心に、小規模なイベントを開催してゆく方向に見直しました。また、広く宣伝をするのではなく、参加者一人一人が自分の居場所として参加できるきめ細やかさの原点に戻り、そこから丁寧に広げてゆく方法に戻ります。

補助対象経費の決算内訳

<収入の部>

項目	金額	内容
自己資金(負担)	26,585円	
夢たま補助金	106,000円	
収入合計	132,585円	

<支出の部>

人件費	20,000円	
出演者謝礼	50,000円	4名
チラシ・ポスター・報告書等や印刷費、材料・消耗品等の購入費	6,285円	チラシ作成費、手刷りチラシ印刷代、発電機用ガソリン代
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	50,000円	音響・PA費
機器類の賃借(レンタル)料等	6,300円	音響機材・発電機レンタル
イベントなどの会場等の使用料	0円	
保険料等	0円	
その他必要な経費	0円	
補助対象経費合計	132,585円	

事業名	演劇で広げる多摩の輪プロジェクト
団体名	多摩市民文化交流振興会
事業の目的	<p>喜劇活動を通して、地域コミュニケーションを意識した幅広い年齢層での交流を深め、市民の多摩への興味・関心を向上させることを主たる目的とする。具体的には、公演する演劇を歌や踊りを交えた音楽劇とすることで、様々な分野で活動する幅広い年齢層の人々との交流を図る、というものである。特に多摩市には文化活動団体(合唱団等)が数多く存在するため、音楽劇の公演が活躍の場を広げることにつなげることができる。</p> <p>また、新たな視点で多摩を見つめ、市民の愛着心を育てることを意識し、「多摩の民話」や「多摩の平和」のように濃い地域性を反映した題材を扱う計画を立案、進行していた。</p>
主な事業実施内容	
参加者	
事業の成果	<p>当初予定していた12月の関戸公民館 VITA ホール抽選で落選、実施を1月に延期することに決定し、市役所に報告、同時にベルブホールの利用も検討し、1月分の抽選では、関戸・永山の両公民館にて抽選に参加するものの、1月分も両公民館にて落選、更に、2月への変更を検討し、抽選に参加した。</p> <p>2月分の抽選にて、会場の確保はできたものの、当初予定から大幅に予定変更があったため、予定していた演出家の日程調整を行ったが、2月は別の公演が控えており、参加不能とのことであった。急遽、別の演出家への依頼も検討したが、予算などを検案した結果、補助金を用いて行うに値するクオリティを確保することは難しいと判断し、事業の中止、返金を行うことを決定した。</p>

総事業費	0円
補助対象経費	0円
補助額	0円

<自己評価>

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	ほとんどできなかった
ほとんどできなかった理由	本事業の軸である最終公演が可能な施設を予定していた時期に確保することが叶わなかったため。これは、当初の計画において最終公演を予定していた12月及び翌1月の施設予約に応募団体が殺到したことによる。(3月11日の東日本大震災の影響を受ける。)
計画時に期待した効果をあげることができましたか	ほとんどあげられなかった
ほとんどあげられなかった理由	計画外の2月に施設を確保できたものの、当初演技指導の依頼を検討していた演出家の都合を合わせることができなかった。他の指導者の招聘は補助金の額から非常に困難であり、また、指導者のいない状態による本事業の最終的な効果はほぼないといえる。
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	前述したとおりの事態を受け、本事業は先に事業計画廃止承認申請書を提出、受理されている。よって、本計画に市民(利用者)が関与する契機がなく、ニーズも不明である。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	本事業の廃案には、3月の天災が密接に関与しており、当団体のみならず他団体においても事業推進に影響が出ざるを得ない状態であった。ことに施設の確保は計画の根幹を揺るがす問題であり、最終的に事業を実行することができなかったため評価も難しい。当初立案した計画は「演劇」という創作物を扱うことを考えると妥当なスケジュールである。廃案、という結果を残念に思っている。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	演劇公演においても最も助成金を必要とする内容は「施設・設備」である。最終的な公演で使用することはもちろん、よりよい作品を創作するための稽古環境整備も欠かすことはできない。本事業は当補助金のチャレンジ部門1回目の申請であり、12月(に予定していた)最終公演を契機に本事業の存在を市民にアピールできれば、翌年度以降の事業に対する協力(資金面含む)が得られたのでは、と考える。

補助対象経費の決算内訳

<収入の部>

項目	金額	内容
収入合計	0円	

<支出の部>

人件費	0円	
出演者謝礼	0円	
チラシ・ポスター・報告書等や印刷費、材料・消耗品等の購入費	0円	
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0円	
イベントなどの会場等の使用料	0円	
保険料等	0円	
その他必要な経費	0円	
補助対象経費合計	0円	



事業名	みんなで楽しく！芸術講座 ―日本のアート縄文土器に学ぶ―
団体名	特定非営利活動法人 アート多摩
事業の目的	この事業は、アートを通して、地域の歴史・文化への理解を深めることを目的とします。アートの視点で地域の歴史文化を読み解くことは、地域の理解を深めるだけではなく、地域ではぐくまれた人々の感性にふれることができます。そして、歴史ある地域とのつながりを体感することにより、風土・歴史への関心が広がり、地域を愛し守る気持ちはいっそう強いものになります。また、歴史文化から学んだ感性を生活の中に生かすことができれば、ひとりひとりの生活はより楽しく豊かなものになります。
主な事業実施内容	平成 23 年 10 月 18 日：多摩地域の縄文文化と縄文土器の芸術性についてのレクチャー 10 月 31 日：土器制作 11 月 1 日：土器制作 12 月 19 日：講評会とレクチャー
参加者	レクチャー・制作申込者4名、レクチャー当日参加者 3 名
事業の成果	多摩地域の縄文文化への関心を高め、土器芸術についての知識と生活文化としての縄文について知ってもらえた。 多摩ニュータウンに縄文文化が栄えたことと、そのことが地域の財産であることを理解してもらえた。

総事業費	162,449 円
補助対象経費	159,835 円
補助額	116,000 円



**新たな補助金交付事業**

## みんなで楽しく！芸術講座 ―日本のアート縄文土器に学ぶ―

多摩市は縄文遺跡の宝庫です。縄文人はすばらしいアート・縄文土器を生み出しました。私たちの生活・縄文人は想像し、おもしろい感性を持っていました。縄文土器の感性とは一見さう芸術的視点から縄文土器を眺めると、その感性に感ずるのみでありません。

**2011  
10月18日  
スタート**

**講座内容** 4回で1コースです

第1回 縄文の遺跡から見えてくる縄文人の感性と生活

第2回 縄文オリジナル土器制作

第3回 縄文オリジナル土器制作

第4回 完成作品を囲んで

**日時**：10月18日（火）13:00～15:00、  
10月31日（月）13:00～16:00、11月1日（火）13:00～15:00、  
12月19日（月）13:00～15:00（4回1コース）

**場所**：多摩市市民活動情報センター

**対象**：多摩市在住、在野、在学者（4回続けて参加できる方）

**定員**：15人（申込先着順）Faxまたはお電話でお申込みください

**講師**：井出政男氏

**費用**：1500円（制作材料代 4回分）

**申込み** 問合せ 主催：NPO法人アート多摩 多摩市中央2-3-3  
Tel 042-577-1435（受付時間）Fax 042-577-1358（受付時間）

**講師紹介**  
井出政男 東京都 縄文研究家  
15歳の若さで縄文土器の複製を始めた。複製は、縄文土器の感性を再現する。20年、複製の経験を活かして、縄文の感性について講演を行っている。2011年、上野原市では、各地で講演活動。特に多摩市市民活動情報センターで講演。

<自己評価>

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	あまりできなかった
あまりできなかった理由	参加者が少なかった
計画時に期待した効果をあげることにはできましたか	あまりあげられなかった
あまりあげられなかった理由	参加者が少なかった
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	講座の継続的な開催
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	講座回数の設定に問題があり、参加者が予定に達しなかったという点では目的を達せられなかったが、参加者に対しては地域の歴史や文化の素晴らしさをアピールできた。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	参加者は少なかったが「継続して講座を続けたい」という声が上がった。今回の事業では講座の回数や設定に問題があったと思われるので、その点を改善して、より参加しやすい形に設定する。自立した事業として継続するためには、費用面での検討が必要。

補助対象経費の決算内訳

<収入の部>

項目	金額	内容
参加費	6,000 円	材料費、資料代
自己資金(負担)	37,835 円	
夢たま補助金	116,000 円	
収入合計	159,835 円	

<支出の部>

人件費	30,000 円	会場準備その他
講師謝礼	72,000 円	レクチャー、制作
チラシ・ポスター・報告書等や印刷費、材料・消耗品等の購入費	36,315 円	チラシ作成印刷、資料コピー、粘土等制作材料
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	20,000 円	土器の焼成
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	1,080 円	行事保険
その他必要な経費	440 円	切手、振込手数料
補助対象経費合計	159,835 円	

事業名	高齢者を元気にする「懐かしい思い出抒情画」
団体名	ぬり絵アート普及協会
事業の目的	1. 認知症の予防と改善 2. デイケアスタッフの啓発 3. 人と人とのコミュニケーションにより人々の輪が広がる 4. 回想法のぬり絵手法・会話手法により脳の活性化
主な事業実施内容	平成 23 年 4 月:冊子編集方針企画案づくり、4テーマタイトルの調査 5 月:冊子原画一式原画製作開始 6 月:出前講座用施設名簿入取会議 7 月:出前講座の推進企画会議 8 月:冊子配布及び講座拡大案会議 9・10 月:出前講座の実施 11 月:冊子配布と販売 12 月:「講座及びアクティビティの集い」準備会議 平成 24 年 1 月「講座及びアクティビティの集い」開催 2 月:報告書作成準備打ち合わせ 3 月:報告書作成
参加者	「講座及びアクティビティの集い」参加者 48 名の結果となった
事業の成果	1. 懐かしい思い出・抒情画冊子制作 ・回顧 懐かしい思い出の原風景を再現し回顧する。 ・話す 絵を見ながら幼いころのことを話す。 ・歌う 当時はやった歌を歌いだす。絵の題名は唱歌の題名など 2. 講演及びアクティビティの集い ・多摩市地域の介護施設から計画的なアクティビティ要請に応える活動支援。 懐かしい思い出叙情画も各アクティビティの集合体として施設側に紹介する。 市役所多摩市ケアマネ連絡会議に参加できた。 3. 出前講座の実施 ・各施設のプログラムにあわせ、その要請内容を決定、昭和をテーマにベネッセスタイルケア、らいふねっとMOE他出前講座を実行。

総事業費	460,880 円
補助対象経費	460,880 円
補助額	300,000 円

**「懐かしい思い出の叙情画」**

脳の活性化を促す「回想的アクティビティ」

あの元気な子供時代、記憶の中に最たくそれぞれの昭和、時をこえてよみがえる人々の正影、愛唱歌をくちすさみ、懐かしい風景を思い出出すことで脳の活性化を促します。

**「回想的アクティビティ」の進め方**

1 原画を見る	2 思い出を話す
	
3 歌を歌う	4 色を塗る
	



<自己評価>

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	「懐かしい思い出の叙情画」の中で好評だったのは、夕焼け小焼け、故郷、赤とんぼ、里の秋、母様の歌、われは海の子など、唱歌をテーマにしたものが人気。つまり唱歌がイメージできることが大切なキーワード
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子作りに関して・・・唱歌を叙情画の題名としたことが好評(48名の参加)</li> <li>・講演及びアクティビティに関して・・・他のアクティビティグループとの合同企画が成功</li> <li>・出前講座実施に関して・・・目標の8割程度実行できた</li> </ul>
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	叙情画冊子の応用編として企画プランを立てていく。素材を生かし紙芝居式で物語風にする。参加者が話を始める。さらに歌になって最後にぬり絵を用意しておく。「昭和の体験絵本」等に応用

補助対象経費の決算内訳

<収入の部>

項目	金額	内容
出前講座	98,400 円	施設の叙情画ワークショップ
販売収入	40,000 円	冊子配布販売
自己資金(負担)	22,480 円	
夢たま補助金	300,000 円	
収入合計	460,880 円	

<支出の部>

人件費	0 円	
講演会講師謝礼	10,000 円	
チラシ・ポスター・報告書等や印刷費、材料・消耗品等の購入費	213,880 円	参考資料、ファイル、色鉛筆、印刷等
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	237,000 円	冊子テーマタイトル調査、冊子イラスト用原画、冊子レイアウト、冊子販売・出前講座・「講座及びアクティビティの集い」チラシデザイン
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	460,880 円	